

シリーズ

お互いの力でまちづくり ⑨

日本ふるさと塾主宰・萩原茂裕

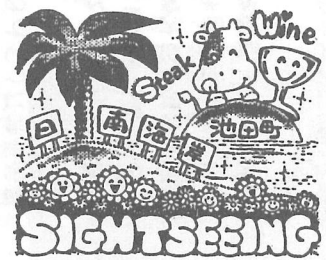
まちづくりの大切な要素に観光があります。ところが観光とは、いったい何だろう？と考えてみると、いままでの発想は、「他人のためのもの」でした。

それは、自分たちの作った飲み物、食べ物に自慢でき、ふだん自分たちもそれを飲み、食べているからです。

人気投票を行いました。そして県の関係者が、なんと121万枚のハガキを送り込んだのです。

たちまち人気投票の上位に躍り出て、何もない海岸線に観光客が増えました。

最初は、県民の多くが「日南海岸」の名前さえ知りませんでした。びっくりして見に行き、改めて海岸の美しさを



たちが、この海岸線の美しさを自慢に思い、よそからくるお客さんにハートで接するようになったことです。

観光地に出かけると、車の窓からごみを投げ捨てる光景にぶつかります。ところが、「日南海岸」には、ごみがありません。通りすがりの県民が、黙って拾っていくからです。

宮崎県の観光資源は、このように人の心なのです。

だから、価値観を変えれば、どんなものでも観光資源になっていくのです。

観光資源をどうとらえるか

ですから、よそからくる人の目を引きつけて、いかにお金をさせせるかというところが、観光だと思われていたくらいがあります。だから観光とは、土産物屋と旅館がやることだと片づけてしまいがちでした。

これは間違っています。北海道の池田町がいい例です。このまちは、ワインとステークを観光資源としました。従来こういうものは、観光資源といいませんでしたが、池田町は胸を張って観光資源にしたのです。

まちを愛する心が

お客を呼び寄せる

自分たちが
自慢できることが大事

話はだいぶ古くなりますが、昭和25年、宮崎県に3つの町が合併して日南市が誕生しました。そして、古い海岸線の街道が「日南海岸」と名付けられました。

ちようどそのころ、ある新聞社が「日本観光地百選」を企画し、読者のハガキによる

見直しました。そして、それを自慢に思う人の輪が広がっていききました。自分たちが自慢できるから、観光客はどんどん増え出し、「日南海岸」が全国的に知られるようになりました。

目的をもって
さらに努力する

観光客が増えてきた宮崎県

では、さらに努力をしました。「2度も3度もきてもらおうようにするにはどうしたらいいだろうか？」

「ヤング層、それから新婚カップルにきてもらいたい……」自分たちで植えたフェニックスの緑に加え、海岸線にハイビスカスやポインセチアなどの花を植えました。

そして、何よりも地元の人



みんなが利用している坂田池公園も観光資源の一つ